

第 35 回庭野平和賞贈呈理由

本年、第 35 回庭野平和賞は、「アディアン財団」に贈呈される。アディアンは、レバノンと国際社会における多様性と連帯、そして人の尊厳のために、多様な社会における市民権と共存をより確固たるものとし、宗教間の精神的連帯のための文脈と基盤を創り出すことを使命としている。2006 年に創設されたときの創設者は、キリスト教とイスラームの異なる宗派に属し、異なる専門性を持つ、ファディ・ダウ、ナイラ・タバラ、ミレイユ・マター、トニー・サウマ、サマ・ハルワニの 5 人だが、その団結がアディアンの最も強固な資産となっている。特に、シリア内戦で傷ついた人々のための平和と和解への手助けを提供する「回復と和解構築プログラム（BRR）」を開発した。このプログラムは、ゴードン・ブラウン国連グローバル教育担当特使から IS（イスラム国）に対する本当の解毒剤であると認定された。庭野平和財団は、世界の平和構築に対するアディアンのたゆまぬ貢献に対して、第 35 回庭野平和賞の贈呈をもって賞賛の意を表する。

アディアンの活動は、2016 年、創設からの 10 年間で、3,000 人以上のメンバーの協力を得て 29 カ国 35,000 人もの人々への貢献を成し遂げている。その多大な貢献は、市民権とダイバーシティマネジメント研究所、コミュニティ参加部門、メディア部門、そしてラシャド文化ガバナンスセンターの 4 つの部門をとおして、レバノン、中東、さらには地域を越えた世界に対してなされてきた。これら 4 つの部門は、社会の様々な側面に触れて、文化的、教育的、社会的なプログラム、政策立案やアドボカシーに関わるプログラム、そして精神的なプログラムを、それぞれのグループにとって取り組みやすく適切なものとなる方法で実行している。草の根レベルでの変化に焦点を当てることを疎かにせずに学術的な研究と政策提言を行う能力を備えたことがアディアンの主要な業績の一つである。

アディアンが願う世界は、個々人の間やコミュニティの間の多様性が、豊かさ、相互理解、創造的発展、持続可能な平和と精神的連帯として、生き生きと発現している世界です。（アディアンのホームページから引用）

この引用は、多様性が負債や弱みではなく資産や強みであると人々が理解できるようにするとのアディアンが自身に定めた中心的な課題を含んでいる。これは、レバノンにおいてのみならず、世界においても要を得たことである。世界の国々では国境を固めて異質と見なされる人々を押し返している。アディアンはその運営体制において、多様性がうまく取り扱われる時には強さと創造的な可能性をもたらすことを示している。

さらにアディアンは、「宗教の社会的責任」と呼ばれる枠組みの中で活発に関与する市民となることの宗教的責任を強調している。「他者」の存在を豊かなことと認識することは、社会的に必要とされることのみならず宗教的になすべきことでもある。理解を深く突き詰めてゆけば、活発な市民となることは自分自身の奥深い霊性に迫ることであると言えよう。このことは、分断、非難、そして暴力が支配的な社会から、協力、開放性そして平和で語られる社会へと、真に社会を変革できるというメッセージである。

2013 年、アディアンは、レバノンとシリア両国内のシリア人に「回復と和解構築プログラム（BRR）」と呼ばれるプロジェクトをとおして、宗教間に穏やかな対話と平和教育を提

供することで、シリア危機に対応した。シリア人教育者への教育訓練をとおして学校や学校に準ずる教育の場における平和と和解に関する取り組み方を提供した。シリアの子どもたちが平和構築に向けた従来とは異なる方法を身につけ、それが暴力の連鎖に取り込まれることから子どもたちを防いでくれることを希望する。

2016年、アディアンは、ジャーナリストや市民活動家と共に、非排他的市民権と宗教間の連帯の意義を広め、社会をイスラム国のトラウマから癒やすことのできるように、人々の能力を高める取り組みをイラクで開始した。

まだ創設から10年余りではあるが、アディアンは著名な賞を受賞している。2011年、アディアンは和解と平和構築の取り組みが評価され、レバノンの市民平和賞を受賞した。最近では、2013年、国連「文明の同盟」とアゼルバイジャン共和国が協同で贈呈した「多様な世界における平和な共生」賞を受賞した。この賞は特にアルワンという名称の学校教育に関するプロジェクトに対して贈られている。各地の公立・私立学校で市民権と平和に関する教育プログラムが実施されるように、アディアンはレバノンの教育省と協働した。

2011年、アディアンはレバノンの教育・高等教育省（MEHE）及び教育研究開発センター（CERD）と提携し、非排他的市民権という概念に基づく学校教育カリキュラムの改革に向けて「市民権と共存の教育のための国家戦略」に着手している。

アディアンが、宗派的分断社会が多文化共生社会へと成熟し過激主義への十分な抵抗力を保持するようになるための方策を今後も開発してゆくことに大いに期待を持つものである。アディアンはその取り組みの焦点の当てどころを、レバノン、拡大してレバント（地中海東岸地方）、そこからさらにアラブ世界、ついには世界全体へと広げている。アディアンの影響力は、同心円状に広がる輪のように、レバノンから広がっている。アディアンの取り組みは、暴力と憎しみの織りなす複雑な歴史を持つレバノンにおいて、宗教のグループ、社会の団体、そして政府が協働して平和を築き、宗教や宗派を超えた協力体制を育ててゆく力が潜在的に備わっていることの良き例となりつつある。

アディアンの業績はとてこの場で簡潔に要約することは難しいほど実に多様である。庭野平和財団は、アディアンの中東における実社会での影響力と精神性における影響力に対して賞賛と賛意を表するとともに、平和の構築と諸宗教の共存の促進を目指すアディアンの遠大で創造的な取り組みに対して、第35回庭野平和賞を謹んで贈呈するものである。

庭野平和賞委員会 委員長 ノムファンド・ワラザ